

2008. 1. 4

佐川克弘

## 河川の水質を改善している大阪市下水道

異常渇水対策シュミレーションにおいて河川管理者は、根拠も示さずに維持用水のS59実績（大川で20m<sup>3</sup>/s削減）を提示していません。そればかりか野村東洋夫氏の提案に「きちんと」回答していないことは、ご存じの通りです。

さて野村氏によれば、S59渇水において解散した大阪臨海・工業用水の取水が出来なくなった以外に何ら支障を来さなかった、つまり魚類は（BODの上昇、DOの減少、塩分濃度の上昇など、維持用水削減のために）壊死しなかったようです。緻密な野村氏は、図書館で当時の朝日新聞を1枚1枚閲覧し、上記の大阪臨海以外に何らの報道が無かったことを確認しているのです。（魚が大量に壊死したら、新聞報道されるでしょう。）

ところで大阪市内の河川で、水質が環境基準に適合していないのは寝屋川水系です。大阪市内の下水道整備がH18. 3. 31現在99. 9%なのに、上流域（柏原市、八尾市など）の下水道整備が遅れているからです。例えば平野川・中竹淵橋付近のBODは13mg/L（H17年度年平均）と、環境基準8mg/Lに適合していないようです。※

この平野川や平野川分水路の水質改善に役立っているのが、大阪市平野下水処理場の3次処理水で、そのBODは4. 9mg/L（H17年度）です。

S59当時の大阪市内河川の水質データは手元にありませんが、現時点でS59よりも改善されていることは間違いありません。別途お願いした大川の維持用水削減の影響をご検討する際（「大阪市内河川の魚類生息状況について」）参考にさせていただきたくお願い致します。

以上

※大川、堂島川、土佐堀川、道頓堀川、木津川、尻無川、安治川は、全て環境基準をクリアしていますが、さらなる水質改善が期待されることは言うまでもありません。しかしこの課題は、異常渇水対策とは切り離して検討を続けるべき課題ではないでしょうか。また、河川維持用水をこのまま大川60m<sup>3</sup>/sでよいのかどうか、大川の流量を若干減らしても、その一部を新淀川に振り向けてもよいのではないかと、についても検討していただければ幸いです。（流域委員会で検討できなければ、淀川環境委員会で検討してもらうのも一案だと考えます。）